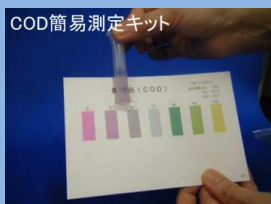


○土壌の地力窒素(水田・畑)を簡易に測定できる方法が開発され、全農の土壌分析センター※や現地で診断ができる。(※県によっては対応していません)

○地力窒素含量に応じて、施肥量を増減することで、収量向上または減肥が可能となる。

分析法の概要(畑)

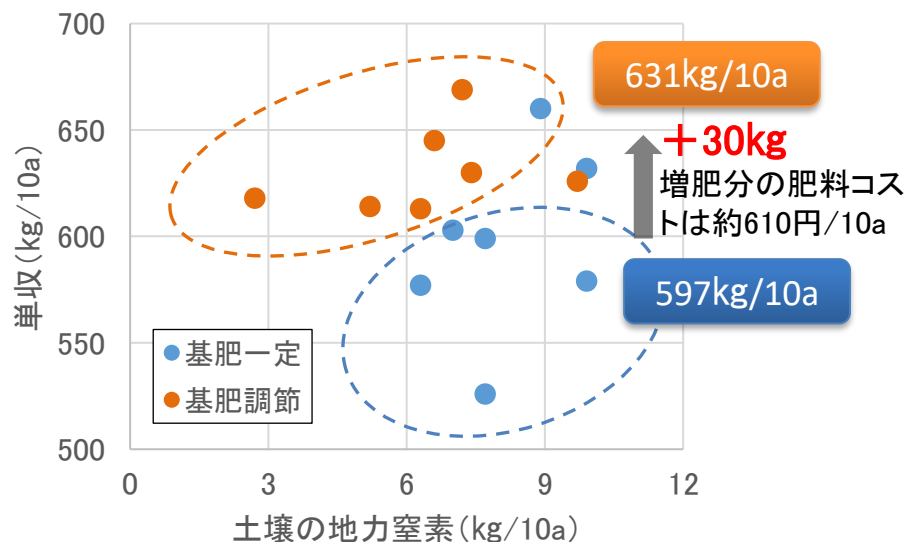
- ① 土壌を採取
- ② 土壌を容器に測り取る
- ③ 80℃のお湯を加える
- ④ 80℃で16時間保温する
- ⑤ ろ過液を採取
- ⑥ パックテスト(現場)又は機器(分析センター)で測定、



農研機構マニュアル

https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/files/narc_available_N_paddy_man.pdf <水田>

https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/result_digest/files/snmanu.pdf <畑>



地力窒素に応じて基肥量を調節することによる増収
(R4年度、石川県:ひやくまん穀14圃場で検証)

活用の方法・事例

- ◆ 多収品種(ひやくまん穀)で地力窒素含量(mg/100g $\div$ kg/10a)と基肥窒素施用量が18~20kg/10aとなるように基肥施用量を調節した。(右上の事例)
- ◆ 地力増進基本指針では、水田の地力窒素の改良目標値は8~20mg/100gのため、8mgを下回る場合は増肥する。(根本的には堆肥等による土づくりが重要)
- ◆ 数値の活用について示している県が増えているので参考にできる。(茨城、鹿児島、富山、滋賀)